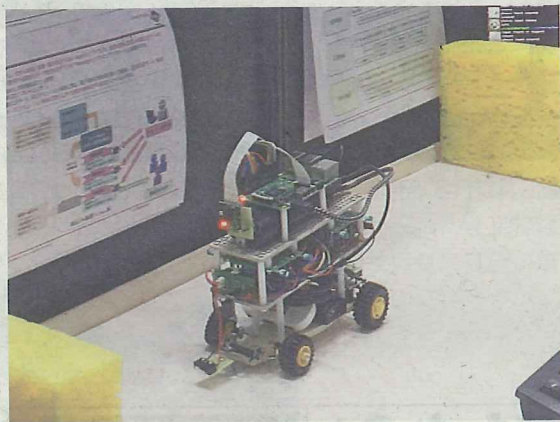


デジタル・インフォメーション・テクノロジー

情報端末へのサイバー攻撃防御

ソフトウェア開発のデジタル・インフォメーション・テクノロジーは、自動車に搭載されているカーナビなどの情報端末を、サイバー攻撃から守る技術の開発に乗り出した。同社は既にウェブサイトの分野で実用化を果たしており、医療機器、セキュリティカメラなどへの活用も視野に、来年中の商品化を目指している。

この技術は、ウェブサイトの改竄を瞬時に検知し修復するセキュリティソリューション「ウェブアルゴス」を、IoT(モノのインターネット)向けに応用したもの。同社が開発したウェブアルゴスは、ウェブサイトの監視用ソフトウェアとして昨年7月に発売された。使用するときはウェブサーバーにインス



自動運転車をサイバー攻撃から守るセキュリティソリューションの模型―東京都江東区の東京ビッグサイト

トールして常時監視する。改竄が発生すると瞬時に検知して、0.1秒以内に正常な状態に自動復旧させる仕組み。悪質な未知のサイバー攻撃の被害からウェブサイトを守ると同時に、改竄されたサイトを通じたウイルス感染などの被害拡大を防ぐ。

従来一般的だった定期監視タ

ープの検知製品と違い、改竄に気付いてから復旧するまでのタイムラグがほとんどない。このため被害を最小限にとどめることができる。これまで主に金融機関などに導入されている。

現在、ハードウェアであるECU(電子制御装置)などへの攻撃に対しては、各メーカーが

セキュリティ対策を施している。だが、カーナビなどのソフトウェアを搭載している情報端末の方が、ハッキングが容易で操られる恐れが強いにもかかわらず対策は遅れている。

自動運転車は便利になる半面、搭載された情報端末や電子制御装置が外部からの侵入によって操作され、衝突などの重大事故につながるのではないかと懸念が持たれている。一方、医療機器なども同じように、人命に関わる重大な事故につながる可能性が指摘されている。

このため同社では、起動中のソフトウェアが改竄された場合の復旧と、サイバー攻撃をブロックする技術へのニーズは高いとみている。

同社が自動運転車へのサイバー攻撃を防ぐ模型を展示会に出展したところ、自動車やホームセキュリティ関係者ら数十人からの注目を集めた。視察した人は「こういう対策は必要だ」との認識で一致していた。その

上で「ソフトウェアだけでなく、自動車本体や家電製品などの機器側にも、防ぐためのセキュリティ機能を搭載することが必要なのではないか」との意見も示された。同社はIoTを成長分野と位置付け、セキュリティ事業を強化する方針。飯嶋範崇執行役員は「当社がいち早く、サイバー攻撃を防ぐためのソフトウェア向けセキュリティソリューションを提供したい」と話している。(佐竹一秀)

■会社概要

- ▷本社―東京都中央区八丁堀4-5-4 FORCAST 桜橋3階
- ▷設立―2002年1月
- ▷資本金―4億2129万円
- ▷従業員―連結878人
(15年8月末時点)
- ▷売上高―連結84億9200万円
(15年6月期)
- ▷事業内容―ソフトウェア開発、コンピューター販売